

おや , なにかわすれていなかな

【低学年 2 - 1】

- 実体験を取り入れた指導 -

(1) 主題名 気持ちのよいあいさつ [2 - 1]

(2) ねらい 時と場に応じて , 気持ちのよいあいさつをしようとする態度を育てる。

(3) 資料名 「おや , なにかわすれていなかな」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 あいさつには , どんな言葉があるか考える。	<p>あなたは毎日 , 誰とどんなあいさつをしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんに「おはよう」と言う。 ・先生に「さようなら」と言う。 ・お客様に「こんにちは」と言う。 	いろいろなあいさつの場面を想定し , 発表させる。
展開	2 「おや , なにかわすれていなかな」を読んで話し合う。	<p>お話に出てきた小鳥やネコや金魚たちは , 首を傾けてどんなことを思ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あれ , 「おはよう」や「いただきます」って言ってないぞ。 ・先生に「ありがとう」って言わないといけないよ。 ・手を振るだけじゃなくて , 大きな声で「ただいま」って言った方がいいよ。 ・ちゃんとあいさつしないと相手の人が嫌な気持ちになるよ。 	<p>小鳥や金魚になったつもりで発表させる。</p> <p>あいさつをしてもらえたかった相手の気持ちについて考えさせることで , あいさつが人間関係の基本であるということを感じさせる。</p> <p>かずみが , きちんとしたあいさつではないけれど , 相手に対応している場面もあることについて理解させる。</p> <p>場面ごとに適切なあいさつを考え , 実体験する。</p>
開拓	3 あいさつについて考え , 体験してみる。	<p>かずみは , どのようにあいさつをすればよいのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おはようございます。」 ・「いただきます。」 ・「ありがとう。」 ・「ただいま。」 	言葉だけでなく , 表情や声の大きさなどにも目を向けさせる。
	4 自分を振り返る。	<p>あいさつができたよかったですと思ふことやあいさつで嬉しい気持ちになったことを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつをしてほめられた。 ・友だちに「おはよう」と言われるうれしい気持ちになる。 	上手にあいさつができると , 自分も相手もよい気持ちになることを理解させる。
終末	5 あいさつに関する歌を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをするって気持ちがいいね。 	「あいさつ」に関する歌を歌い , 楽しい雰囲気で終わることで「あいさつっていいな。」という気持ちを高める。

おや、なにかわすれていなかな

チツチツチツ…。じょわやかな小とりのじえで、かずみは皿をわましました。いつもよりすこし、はやおきです。かいだんをおりて、だいじじゆくへいくと、お母さんが、あわいはんのしたくをしています。テーブルには、パンと、めだまやさと、きゅうにゅう。そして、かずみのだいすきなリンゴ…。かずみはテーブルにつくと、さつそくたべはじめました。

「おかあさん、きょう、ずいじうがある。『のぐび』べじ出しおこしてくわた。」

おやおや、なにかわすれていなかな?

まどいのやとからみていた小とりが、ぐびをかしげました。

がつこじゅくへいくとかずみ、まえをあるじている、なかよしのわなえをみつきました。かずみは、はしつておじくへ、わなえにいいました。

「ねえ、きのうのテレビみたあ?」

おやおや、なにかわすれていなかな?

ブロックべいの上からようすをみていたね。『が、ぐびをかしげました。』

三じかんめになりました。ずいじうでえをかきます。かずみは、えのぐのじゅんびをしようとしましたが、どうぐいれのチャックがひつかかって「わ」やめかん。かずみは、せんせいのとじゆく、えのぐじゅくをもつていきました。

「どれどれ、かして『じらふ。』

せんせいは、ちょっとくらうじてこるよひかでしたが、しづめいへして

「ほら、あいたよ。」

と、わたしてくれました。

かずみは、あんしんしてせきにむだりました。

おやおや、なにかわすれていなかな?

わようしつのすいそうのなかからみていたきんきよが、ふりかえりました。

がつこじゅくからかえるとき、となりのおばあさんが、つえ木に水をやつてこましめた。かずみをみると「かずみちゃん、おかえりなさい。」

と、こえをかけてくれました。かずみは、手をふりました。

おやおや、なにかわすれていなかな?

げんかんさわでみていた、となりのこえの犬の口が、ぐびをかしげました。

かづみは、じのとれ…。ふとんこむこむとれ…。

おやおや、……?

みどりのおぼしがれとおつかれわらわ、ぐびをかしげました。

かずみは、なにをわすれたのかな。

活用に生かすための実践報告

「おや、なにかわすれていなかな」

1 主題の設定

・あいさつは、よりよい人間関係を築くための基本であり、最低限の礼儀である。それは、たとえ相手が家族や友だち、担任の教師など、児童にとって親しい間柄の人たちであっても同じことである。この資料では、児童の日々の生活の中で、あいさつを忘れがちであろうと思われる状況を想定して物語を展開させることで、主人公と自分とを重ねて考えることができるようにと考えた。あいさつのほんのちょっとした一言が、自分と相手の関係を一層さわやかなものにするということ、また、あいさつは、される方だけでなく、する方にとっても気持ちのよいことであるということを感じ取らせたい。

2 指導過程の工夫

・展開場面では、主人公のいけないところについて、児童に直接発言させるのではなく、かずみを見て首をかしげている小鳥や猫になったつもりで発言させることで、どの児童にとっても発表しやすい雰囲気をつくるとともに、かずみに対していろいろな視点から気付きを引き出そうと考えた。なお、主人公はあいさつという面ではうっかりしているが相手との対応のし方について共感できる面があることに留意したい。

3 発問の工夫

・よいあいさつをするかずみになって場面ごとに役割演技をさせることで、

言葉の内容や言葉遣いだけでなく、あいさつをするときの表情やお辞儀などの仕草についても気付かせる。

4 児童の反応（授業後の感想）

・小鳥や猫などのペーパーサートが子どもの興味を引いた。児童にペーパーサートを持たせて、指導者が演じる主人公に対する注意を発言させた。担任に向かって「じゃあダメだよ。」などと注意ができるということもあって、みな、我先にペーパーサートで演じたがり楽しそうに活動した。よいあいさつができる主人公を演じるときには、児童それぞれの個性が表れ、見ている子から「さんらしい言い方だなあ。」とか「その言い方はちょっと怒鳴っているみたいで失礼だよ。」といった感想が出された。役割演技を見ている児童は、自分とは違うあいさつの仕方に気付くことができ、また、演じている児童も自分のあいさつを振り返る機会となった。

5 実践者からの一言

・少々コミカルな感じの資料なので、楽しい授業にはなったが、あいさつについてじっくりと考え、そのよさや大切さについてしっかりと内面化をはかるには至らなかったようだ。低学年のはうちは、「あいさつをすることでいい気持ちになれるね」の段階で終わってもよいのかもしれないのだが、いずれにしても道徳の時間だけでなく、他の教育活動と関連を図り、効果的・継続的な指導が必要である。

（東浄小学校 梅田広晴）